

「モルドバドキュメンタリー2011」第3号

発行日 2011年2月21日

発行人 モルドバ復興支援協会 事務局長 沓澤正明

住所 〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉3-2-35

電話 078-594-2785 Email molkor.jp@ybb.ne.jp

2011年8月27日はモルドバ独立20周年記念日である。今回は2面に理念を掲載した。英文と日本語。英訳は古見良平氏による。

理念は今まで活動してきた結果として生まれた。



年長の少女と年少の少女が歌で歓迎（絵：侑霞）

1998年2月の長野オリンピックの前年「一国一校運動」が提唱された。モルドバのある私立小学校と信州大学付属長野小学校が参加した。民族衣装や小学生が描いた絵などを私たちが運んで何度も交流した。そのとき民族衣装を着て歌で歓迎してくれた。

この民族衣装からはとても優雅な感じを受ける。年長の少女からは、手を組んで少し下を向いているので祈っているかのような静かさを感じる。鑑賞する者に重層的な印象を与える絵のセンスは描いたお方の力量による。ベールは一般に民族衣装と一緒に使うが、それ以外にも、教会に入る時女性はベールなしでは入れてもらえない。

モルドバはどこに行っても子供が多いし、年の離れた兄弟姉妹が助け合って生きている。

ウラジーミル君語学留学で2回目の来日

ウラジーミル君はモルドバ在住のロシア人。ロシア系モルドバ人とも表現される。『モルドバ人の独立と統一』を読んでいる人はすでにわかっていることだが、ウラジーミル君はロシアに対する帰属意識を強く持っているモルドバ人で、今は、日本語を学んで日本で仕事をしたいと考えている。

モルドバで通訳をしていただいたことがきっかけで今も交流している。モルドバで「日本に行きたい」と相談を受けたとき、私たちは支援できないと断った。モルドバでは日本に行きたいという青年はいくらでもいる。それを断り続けている。彼らは不法滞在してでも日本に居続けようとするのはわかりきっている。だからかわいそうだけれども日本訪問の支援はできないと断り続けるしかない。

しかし、ウラジーミル君はお金を貯めて日本に来た。最初来たときは着ている服がとても簡素で、お金を貯めるのに苦労したことが一目でわかった。

半年間の日本語学校で研修を終えると、東京の会員根田さんが、日本滞在を3ヶ月間延長させて社会勉強させた。あれから1年半、ウラジーミル君は再び来日した。きっと、猛烈に働いてお金を貯めたに違いない。かつて長野オリンピックの時にモルドバから3人の著名なジャーナリストを日本に招待したことがあるが「一生お金を貯めても日本に来ることはできません」と謝意を表してくれたことを思い出す。本年2月10日と13日東京で会った時「ウラジーミル君の2回目の来日は偉大だ」と私は彼を賞賛した。

その後、上京中の岩崎さん（京都「国際学生の家」常任理事）が面接し彼に必要なアドバイスをされた。根田さんがセッティングしたのである。ウラジーミル君はモルドバでは高く評価されているIT技術者であるが果たして日本で通用するか今後の推移を見守りたい。

（『モルドバ人の独立と統一』は月刊雑誌「軍縮問題資料」2010年6月号に掲載された。）

「花の種」とアライグマ

本年2月17日環境省発表によると、外国の生息地から持ち込まれ、国内の生態系や農林水産業に被害を及ぼすケースがある外来生物に関する認知度調査の結果、約5割の日本人がアライグマを外来種と認識していなかったそうである。

外来種アライグマが野生化すると生態系に悪影響が出るという

問題があるようだ。

これと似たようなことが、実は私たち国際ボランティア活動でも起きる可能性がある。失敗談を書く。

ある人が4年前に善意で「1万円分花の種をモルドバに持って行って子供たちにあげて下さい」と寄付して下さいました。フライトの数日前で、何の検討もなく花の種を持って行くことになった。「コスモスの花の種であれば繁殖力が強いのでモルドバのどこに植えてもいい」と言うのである。とにかくコスモスの種も持って行った。それがよかったのかどうか京都のある種苗研究所で研修を終えた青年に相談した。すると「日本の花の種を外国に持って行ってはいけません」と真剣な顔でにらまれた。以来、外来種コスモスが繁殖してモルドバの他の花が駆逐されたらどうしようと不安になった。

翌年、私は初めてモルドバを訪問した。子供たちは受け取った花の種を家に持って帰ったらいい。しかし、誰もそれを植えたり育てたりはしなかった。子供たちは家に帰ると仕事のお手伝いや家事のお手伝いで忙しかった。何か必要なものはないか尋ねると、ノート、スケッチブック、おもちゃ、日本の小学校の教科書、色鉛筆などだった。「花の種」はミスマッチだったのである。

花はモルドバでは盛んに生活に用いられているし、首都キシノウは100店舗位の花屋さんが並ぶ市場がありギネスブックに載るほど花であふれている。

川村容子さんからのお便り

現在、ルーマニアのヤシ（モルドバの古い首都）に研究のため滞在している川村容子さんから、カザネスティ子供デイケアセンターの様子が伝えられた。

先般、日本からクリスマスプレゼントとして送金された寄付金はテレビとパソコンと本となって子供たちに届けられた。現地のコーディネーターであるライサさんからルーマニア語で連絡がありそれを川村さんが日本語に訳して伝えてきた。

ホームページへのアップ

『モルドバドキュメンタリー2011』はモルドバ復興支援協会のホームページにアップされました。印刷するなどしてご自由に活用して下さい。今後とも継続して発表していきます。ご意見や感想もメールでお伝え下さい。

Basic Principles of the Rehabilitation Support Committee to Moldavian Republic

(1) Purpose

(1-1) We aim to conduct our rehabilitation activities in these areas, where the government wants to do, but, actually, cannot do.

(1-2) We do not conduct our rehabilitation activities in these areas, where the government is already doing.

(1-3) We do not conduct any rehabilitation activities, which the government does not want us to do.

(1-4) It is not our purpose to conduct any anti-governmental activities or criticize the politics.

(2) Financial policy

(2-1) Our basic financial policy is “To minimize the domestic expenses and maximize the support to Moldavian Republic” .

(2-2) We do not, in principle, make any budget for publicity or for report meetings.

(2-3) When somebody wants to visit Moldavian Republic, anybody is welcome, regardless of age, sex or school career. They have to visit Moldavian Republic at their own expense.

(3) Visual images

(3-1) We do not, in principle, publicly display any of the vivid images, taken in local areas of Moldavian Republic.

(3-2) We do not retain these visual images, which are assumed to injure the hearts of these people in Moldavian Republic, to whom we give our supports.

(4) Reports

(4-1) We give as detailed reports as possible to those who financially supported our activities.

(4-2) We explain to those who financially supported our activities, both with visual images and documents, which kind of activities we conducted in local areas of Moldavian Republic and how their financial donations were used.

(5) Prohibitions

(5-1) We do not care at all if anybody with special religious creed, political ambitions or business spirit work with us in our volunteer activities.

(5-2) However, it is prohibited that they conduct any religious activities, political activities or business activities by utilizing our volunteer activities or our volunteer organization.

モルドバ復興支援協会の理念

(目的)

政府がやりたいと思ってもできない分野で活動することを目的とする。政府がやっている分野はやらない。政府がやって欲しくないと思っていることもやらない。反政府活動とか政治批判は目的とならない。

(会計)

「国内経費は最低に、現地支援は最大に」を会計基準にする。広報活動や報告会の予算は組まないことを基本とする。現地訪問の希望は年齢、性別、学歴は問わずいつでも受けつけるが経費は自己負担とする。

(画像)

現地モルドバの生々しい画像は基本的に公開しない。支援している対象者の将来に心の傷となって残ると思われる画像は残さない。

(報告)

支援者にはできるだけ可能な限り詳細な報告をする。現地モルドバでどのような活動をしていて、何に使われたかを支援者にわかりやすいように画像とドキュメントを使って報告する。

(禁止)

宗教的信条、政治的野心、ビジネス精神を持っている人が一緒にボランティア活動することは全然問題とはならない。しかし、ボランティア活動や組織を利用して宗教活動、政治活動、ビジネスをすることは禁止する。